

# 北海道建設新聞

2011年(平成23年)11月9日(水曜日)

## 標識200基の設置完了 増毛山道の会が完成記念式



岩尾側入り口を示す1・1の標識を打ち付ける竹谷振興局長

【留萌】NPO法人増毛山道の会(伊達東会長)と留萌振興局は5日、増毛山道の標識設置の完成記念式を行った。将来的な一般開放も視野に、別荘・岩尾間16基で合計200基の設置作業を終えた。

標識は現在位置確認で、山道でも番号が追えるように、別対側からBで始まる通し番号、岩尾側からIで始まる通し番号を、直径25センチの赤地のプラスチック板に白文字で記入。曲がり角など迷いやすい地点を中心に約

160基の間隔、高さ2・5メートルほどの位置に、9月から10回にわたり設置してきた。途中、武好駅通跡と武好橋跡にはこれらとは別に名称の入った標識を設置した。

設置作業の最終日となったこの日は、増毛山道の岩尾側入り口付近に同会や留萌振興局職員のほか、地元住民など20人余りが集合。安全祈願式や伊達会長らのあいさつの後、岩尾側の1番目の標識を竹谷千里留萌振興局長が脚立に上って標識を木の幹に打ち付け、同時に80基ほど上った位置に別対側から100番目の標識を西野憲一岩尾地区自治会長が同様に打ち付け、設置を完了した。事務局を務める小杉忠

利小杉測量設計社長は「一般参加の体験トレッキングとともに本年度の新規実施事項の柱として標識設置を行った。現在はまだ一般開放していないが、将来に向け、来年度も利用検討会や体験トレッキングなどを実施し、地域の宝として活用を模索したい」と話した。